

平成17年8月17日

5号機プロセス計算機に関する警報の発生について

5号機は定格熱出力一定運転中のところ、平成17年8月16日午後5時19分、プラントの運転状態を監視・記録しているプロセス計算機の故障の警報が発生し、午後6時の定期的な計算機の打ち出しにおいて、原子炉熱出力等の項目が正常に印字されていないことがわかりました。定格熱出力一定運転中は、当該計算機にて1時間に1回原子炉熱出力等を確認することとしておりますが、当該計算機による原子炉熱出力等の確認ができないことから、手順書に基づき、午後6時58分より電気出力を2千キロワット降下させました。

警報発生の要因を検討した結果、当該計算機内にある基板の故障と考えられたため、午後11時40分頃、1枚の基板の取り替えを行ったところ、当該計算機の故障の警報が解除されたことから、当該基板の不良であったことがわかりました。また、定期的な計算機の打ち出しにおいて異常のないことを確認し、当該計算機に問題のないことを確認いたしました。

その後、原子炉出力を上昇させ、8月17日午前0時28分に定格熱出力一定運転に復帰いたしました。

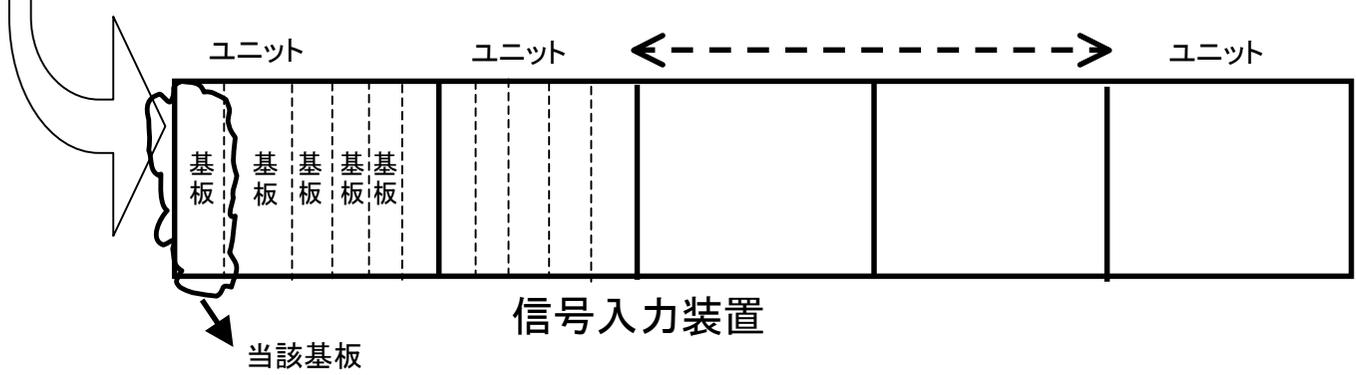
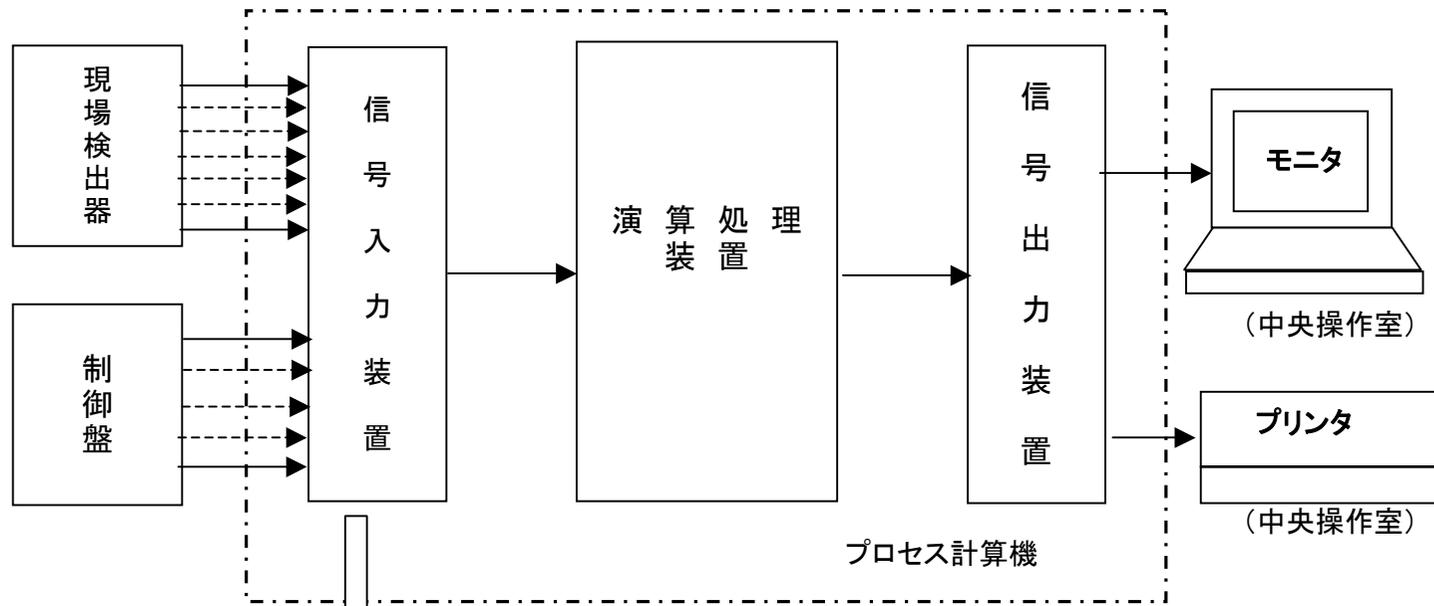
なお、当該計算機が復帰するまでの間、原子炉出力の監視は、平均出力領域モニタ*により継続して行われており、原子炉の運転状態に異常はありませんでした。

これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 平均出力領域モニタ

原子炉内の中性子量を計測する装置の一つで、原子炉の通常運転中に原子炉出力状態を測定するための装置。



プロセス計算機システム概要